

中干しは遅れずに行いましょう!

1. 生育状況

「コシヒカリ」や「みずかがみ」の早生品種の生育は、4月下旬から5月が低温に推移したため、平年よりやや遅れています。浅水管理を基本とし、還元障害が出ているところでは軽い田干しが必要です。



中干し開始適期の株張り程度(目安)

2. 中干しの実施

中干しで、根張りが良くなります。中干しは、軽くひび割れ、足跡がつく程度まで行い、地耐力を高めましょう。



中干しの程度(ひび割れと足跡)

○中干し開始時期

4月下旬から5月上旬移植では6月10日頃、5月中旬移植では移植後1か月を目安に開始しましょう。

【中干し開始時期の株あたり茎数の目安】

栽植密度	50株/坪	60株/坪	70株/坪
コシヒカリ	20~21本	17~18本	14~15本
みずかがみ	—	16本	14本

○溝切り

中干し後の水管理を容易に行うため、溝切りをしましょう。

溝切り数日前に水を切り、田面を少し固めてから再度浅水にして溝を切ると崩れにくい溝ができます。

1) 溝切りは、1本/10a以上*が基本です。収穫前に乾きにくいほ場や水稻跡に麦を栽培する場合は、溝の本数を増やしましょう。

2) 溝と尻水戸をつなぎます。

*環境保全型農業直接支払で「長期中干し」に取り組むほ場は、溝切りは1本/10a以上、中干しは14日以上実施して下さい。

置き苗はいもち病の発生源となります。すぐに処分しましょう。